

(88.10.26)

イタリアに着きました

高部英明

レーザー研の皆様へ

10/20(木) ローマ空港に着きました。暖かく、ブレザーを着ると汗ばむほどのいい天気でした。さっそく、Frascati(ローマ郊外20kmほど南東)の研究所へ。Caruso氏に会い、その日は近くのホテルへ。翌日、各種事務手続きをすませ、研究室の皆とも挨拶を交わし、仕事スタート。

研究所は、エンリコ・フェルミ通り27番地にあり、「FTトカマク」(これはユニークな流体窒素冷却の常伝導トカマクで、外見は四角い箱。日本原子力研究所のJT-60に並ぶ n_T - T_i データを達成している。)に代表されるMC(磁気閉じ込め核融合)の研究所です。構成員約200人、その中にスタッフ8人のレーザー核融合グループがあり、そのボスがCaruso(ニックネーム、ブルドッグ)です。研究所の正式名は長いので省略(ENEA)で呼ばれている。これは、Comitato.....Energia Nucleare e delle Energie Alternative(National Committee for Research and Development of Nuclear Energy and Alternative Energy)のことで、原子力の研究所は別の所にあるとのこと。

Caruso氏は諸用に追われ、忙しい様子ですが、一応、大略"Theoretical Modeling of Radiation Driven Implosion"を主テーマに共同研究をしようということになりました。私としても、このテーマは願ったりで、今までシミュレーション中心であったターゲット設計を、頭を少し切り替えて簡単な理論モデルに集中してみようと思います。Caruso氏いわく、ICFの一般的なReview Paperは多くあるが、このテーマを論文の主テーマとすれば、ユニークなものとなるのだろうとのこと(もっとも、出版にいささか支障あるかも、とのこと)。今、さっそく、Sigel達の自己相似解の再考を行っているところです。

ローマ着6日目になりますが、今はモンテ・ポルチオという小さな田舎町のホテル・ジョバニエーラに住んでいます。研究所から5kmほどナポリ寄り、近くを、ローマ・ナポリの高速道路が走っています。朝7:45、ホテル前をENEAの専用バスが通るので、それを使い、8時過ぎに仕事スタート。Pais(愛称、ヴィセンテ。イタリア系アルゼンチン人。すでにイタリア市民権を取り、永住の予定)氏と同室で、生活一般、色々と親切に助けてもらっています。

9 : 30 ごろ、ドアをノックする音がして、Caruso 夫人（名前カルメーオ、スタッフの一員）が"Coffee!?"とさっそってくれます。すぐ横の研究所のレストランで、"エスプレッソ"の立ち飲。泡状のミルクと砂糖をたっぷり入れ、かきまぜると、なかなかの味。彼女曰く、我々になじみのコーヒーは「単なる dirty water」でしかないとのこと。今日は、彼女がイタリアの新聞を示し、こんな核融合記事があったと説明してくれた。見出しが「ルビア（3年ほど前にノーベル物理学賞受賞）の手中に核融合の"切札"(トランプのエース)あり」。彼は大型加速器建設予算獲得のため、核融合、核融合（HIB）と言っているだけなんだと彼女は言っていました（脚注）。

昼食は、1時半頃。全員（9人）で出かけます。僕の好みは、スパゲティーサラダ、メインディッシュ（肉）にフルーツです。食後、コーヒー飲んで、2時半ごろ仕事再開。しかし、帰りは4：50に研究所のバスが出発しますので、仕事としては昼食までが勝負です。

5時過ぎにホテルに着いて、あとは読書。今は、セグレ著"エンリコ・フェルミ"（みすず書房）を読んでいます。ローマに行くんだからと持参した本です。イタリア人は一般に"チャラン・ポラン"なイメージがありますが、フェルミのような人もいるわけで、ENEAでも、イタリア人のいい所を見つけ出して、吸収したいと考えています。

追伸： 研究所の部屋の電話番号は06[ローマ]-94005731で、直接私の部屋にかかります（ただし10回以上コールするとオペレーターが取る）ご用の際は、時差（日本5：00 pm□イタリア9：00 am）を考慮の上、電話下さい。FAXは06-94005400です。Dr.Takabe c/o Dr. A. Caruso お願いします。

（脚注）「ルビアは加速器が欲しいだけで、核融合プラズマには全く興味を示さない」と、彼と一緒に仕事をしていたイタリア人が言っていました。